

<2016年11月>

しまった！ 趣味がない

国保連合会嘱託 ひがしだ ふみお
東田 文男

Column

恥ずかしながら、これといった趣味がない。現役で働いていた時は仕事を中心に、趣味を持つことにほとんど関心がなかった。趣味がないからといって別に困りもしなかった▽だが、65歳を過ぎた今は「しまった！」と悔やんでいる。手持ち時間がふんだんにあるというのに、やることがない、趣味がないというのはつらいものである。趣味を生かして第二の人生をエンジョイしている仲間とうわさなどを聞くとうらやましくもなる▽「仕事だけではあかん。定年後に備え、意識して計画的に趣味をつくっておかな、時間をもてあますで」。50代のころだったろうか。先



輩からそんな忠告をいただいたことがあった。ああ！後悔先に立たずである▽「何かやりたいことはないの？ もったいない。私なんか……」。一番こたえる（本当は腹がたつ）のが連れ合いからのこの言葉である。子育てや近所付き合いで培った人の輪が大輪の花を咲かせ、連れ合いの趣味は「満開」である▽「今さら」とは思う。だが、先はまだまだ長そうだ。「何かを始めるのに遅すぎることはない」。そう自分をなぐさめながら、一つでもいいから趣味らしきものを見つけたい▽若い人は多趣味だから心配は無用だろう。ただ50代になって趣味らしきものがまだ見つからないという男性諸氏よ、趣味を侮ってはいけませんぞ。さて当方である。孫のおもちゃ類の中から、「これ」をやってみようと思っている。「趣味ができた！」。そう言って、これで、大ぼらを吹いてみたい。